

「実行機能」の視点を用了 効果的なアセスメント及び支援に関する研究

障害者職業総合センター

障害者支援部門 宮澤 史穂

本日の内容

報告書No.178 「「実行機能」の視点を用いた効果的なアセスメント及び支援に関する研究」
結果の一部のご紹介

●研究の目的

実行機能に困難のある対象者への効果的なアセスメント方法及び効果的な支援（介入）のポイントについて明らかにする

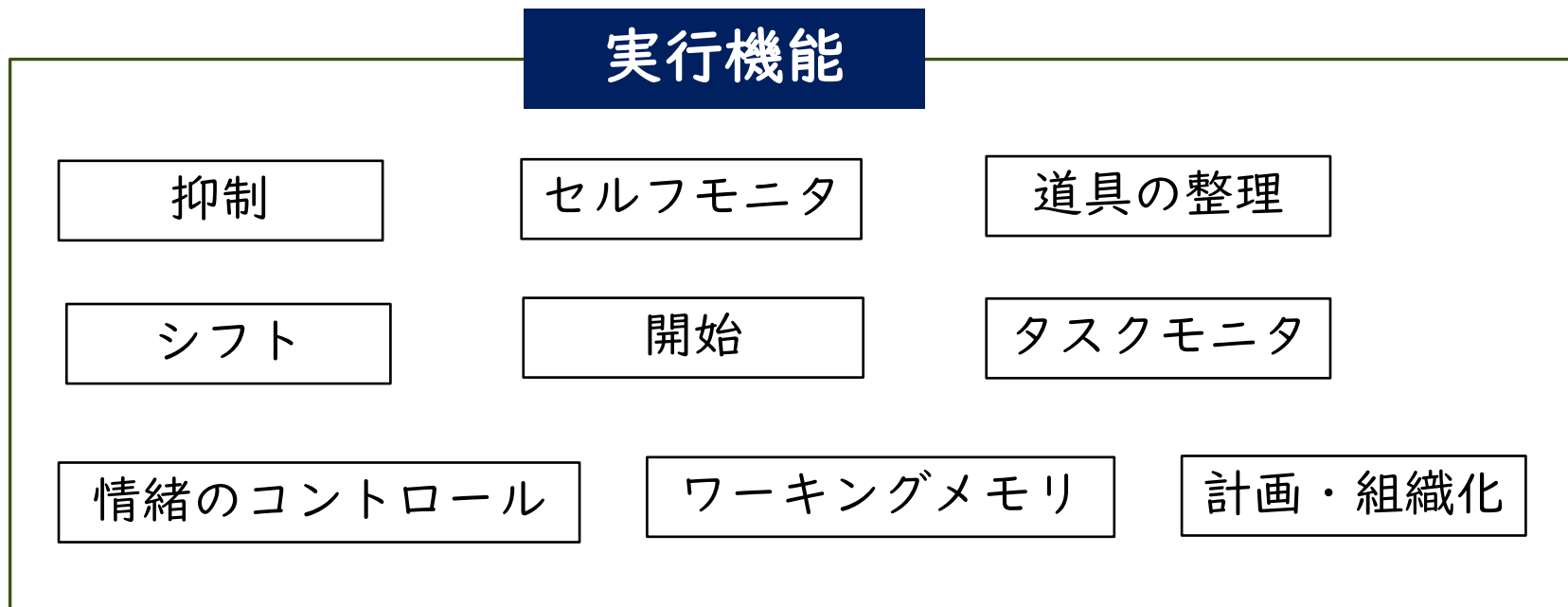
本日の内容

1. 実行機能について
2. 研究紹介1 「地域センター等アンケート調査」
3. 研究紹介2 「実行機能に困難のある対象者への支援に関するフォーカスグループ・インタビュー」
4. 全体のまとめ

1. 実行機能について

実行機能とは

- ・ある目標を達成するために思考と行動を調整する
認知機能
- ・本研究では9つの要素から構成されると定義する



抑制

- 主な働き

衝動をコントロールし、言語や注意、身体的な行動を適切なタイミングで止める

- うまく働かないと...

- ・ トイレでスマホを見続けてしまい、現場に戻るまでに時間がかかる
- ・ 視界に入った作業から取り掛かる

シフト

- 主な働き

状況に応じて行動や考え方を柔軟に切り替える

- うまく働かないと...

- ・ 前任者に言われたルールを後任の人に修正されても、なかなか新しいルールに作業することができない

- ・ 物（コップなど）の位置に強いこだわりがあり、他者が配置したものを並べなおす

情緒のコントロール

- 主な働き

感情的な反応を適切に調節する

- うまく働かないと...

- ・ 疲労が蓄積されると他者に攻撃的になる
- ・ ミスをする则ち気持ちが落ち込む

セルフモニタ

- 主な働き

自分の行動が他人に与える影響を認識する

- うまく働かないと...

- ・ 周囲に不快な思いをさせても気づくことができない
- ・ 手元の作業に集中していたり、焦って作業を行うので普段よりも独り言が大きくなって、その声で周囲が驚いて振り向いたりしても気づかない

開始

- 主な働き

自発的に課題や活動を始める

- うまく働かないと...

- ・ 計画を立てても課題に手を付けられず、提示された期限を守ることができない

- ・ きっかけがないとスケジュールに沿ってとりかかれない

ワーキングメモリ

- 主な働き

作業を完了するために、情報を記憶する

- うまく働かないと...

- ・ 作業手順が覚えられない
- ・ 一度作業等を止めて別の事をする、途中でやっていたことを覚えておらず、作業再開できない

計画・組織化

● 主な働き

- ・ 目標を設定すること
- ・ 段階を踏んで作業を進めること
- ・ 作業を実施するための手順を事前に作成すること

● うまく働かないと...

- ・ 現実的に可能な作業スケジュールを自分で考えて組立てることができない
- ・ 細かな手順の指示がないと、自分で作業の見通しを立てられず、時間内に作業完結することが難しいことがある

タスクモニタ

- 主な働き

作業の実行中や終了後に、ミスがないか確認して、
評価する

- うまく働かないと...

- ・ 作業はできていると思っており、自己チェックすることがなくミスが出てしまう
- ・ 作業をしたら確認をすることは意識づけられているが、確認をしても見落としが多く出てくることもある

道具の整理

● 主な働き

仕事場を整頓し、仕事に必要な道具を管理する

● うまく働かないと...

- ・ 机の整理整頓ができず、 unnecessaryなものまで机に広げ
たまま作業をしてしまう
- ・ 作業環境が雑多であり、工具の一部を紛失していても
気づくことができない

なぜ実行機能に注目？

- ・ 仕事に関係した機能が多く含まれている
- ・ 同じ診断名の発達障害者でも、実行機能検査の得点が高い方が就職率が高い

→社会的成功と関連

- ・ うまく働いていないことにより生じていることが多い

→「うまく働くように調整」できる可能性

2. 研究紹介 I

地域障害者職業センター等アンケート調査

目的と方法

● 目的

実行機能に困難のある対象者への支援実施状況の実態把握

● 方法

- ・ 調査対象：地域センター、広域センター、職業センター
- ・ 調査方法と期間

質問紙調査とし、2023年7月～8月に実施

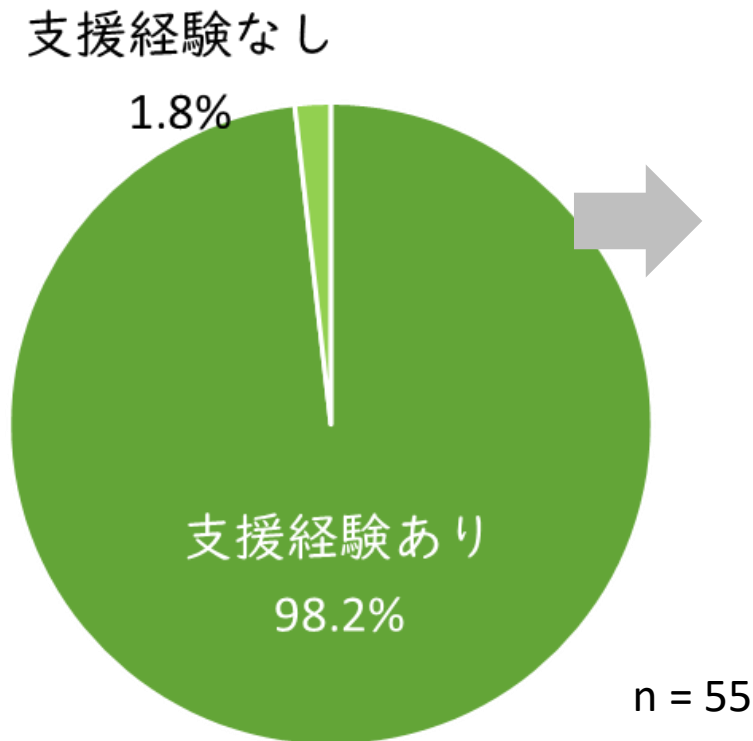
方法

下記のいずれか又は複数の困難が生じている対象者（＝実行機能に困難がある対象者）

- ・衝動をコントロールできない
- ・状況に応じて行動や考え方を柔軟に変えることができない
- ・感情的な反応を適切に調節することができない
- ・自分の行動が他人に与える影響を認識することができない
- ・自発的に課題や活動を始めることができない
- ・作業を完了するために、情報を記憶することができない
- ・目標を設定することができない
- ・段階を踏んで作業を進めることができない
- ・作業を実施するための手順を事前に作成することができない
- ・作業の実施中や終了後に、ミスがないか確認して評価することができない
- ・仕事を整頓し、作業に必要な道具を管理することができない

結果 | 支援経験

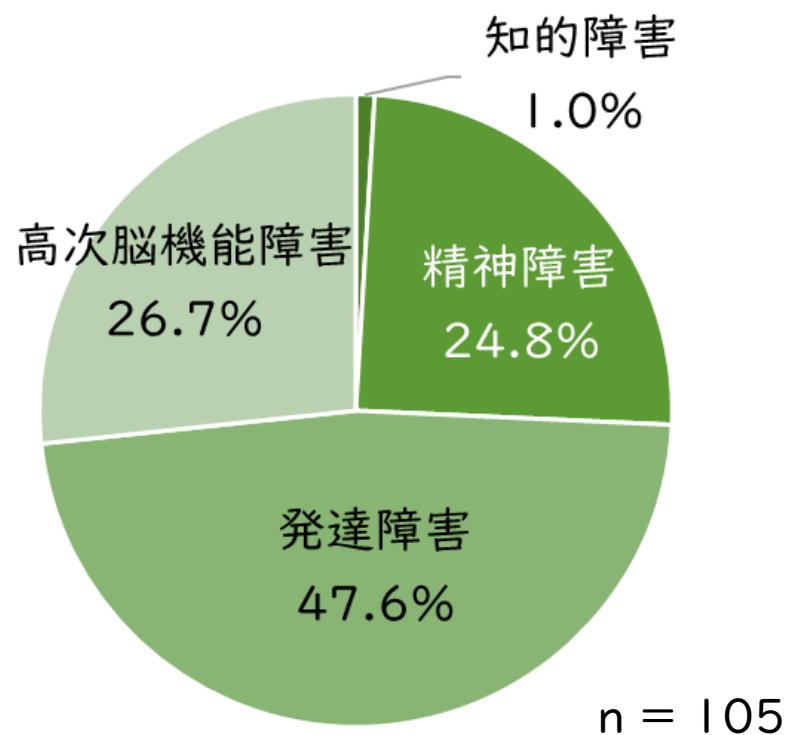
実行機能の困難が生じている対象者への支援経験
はありますか？



支援事例について質問

- ①主な障害種類
- ②対象者に生じていた困難
- ③困難に対する支援
(内容、経緯や理由、結果)

結果 | 対象者の支援事例



対象者の主な障害種類

結果 | 対象者に生じた困難



結果 | 事例の回答例

①対象者に生じた困難

- a) 目の前のことのみに集中するため周囲の状況を把握することが困難
- b) 差し込み作業が生じた際に元の作業に戻ることができない

②支援の内容

- a) 単独作業スペースを確保し、余分な情報を遮断
- b) 支援スタッフと相談しながら作業遂行計画をたてるようにした

結果 | 事例の回答例

③ 支援の経緯や理由

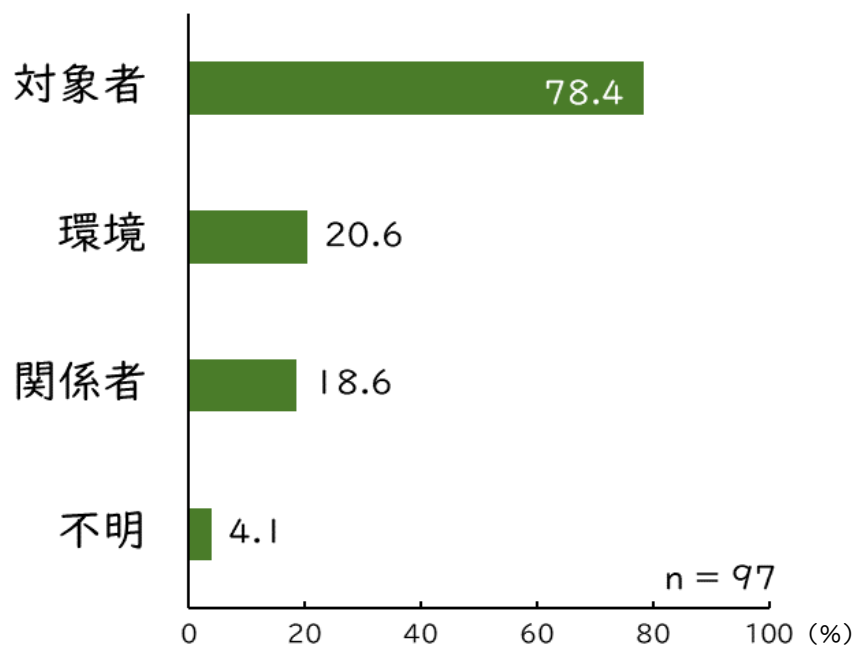
自らの処理方法に固執してミスが発生する様子があり、支援スタッフとの相談を通じて作業遂行を行うことでミス軽減が図られることが確認されたため

④ 支援結果

- ・ 周囲から「〇〇さんの作業スペースは確保することが望ましい」と理解を得やすくなった
- ・ ミスが減少できたことで「支援者と相談するメリット」を実感することができた

結果 | 支援事例の分類

「支援の内容」の記述を分類→支援の対象に注目



・ 単独作業スペースを確保し、余分な情報を遮断

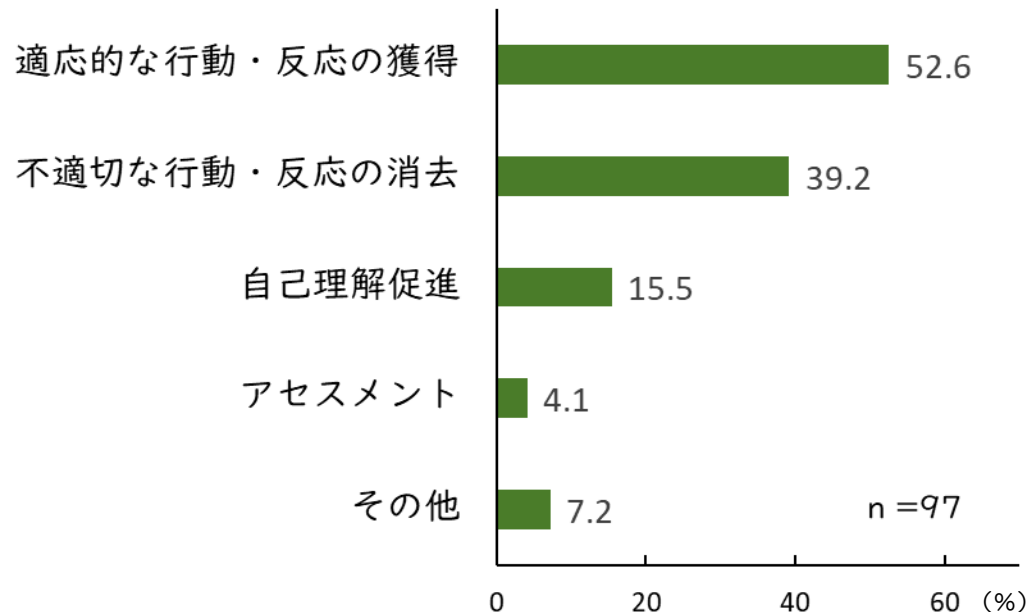
・ 支援スタッフと相談しながら作業遂行計画をたてるようにした



➡ 環境・対象者

結果 | 支援事例の分類

「支援の経緯や実施した理由」を分類



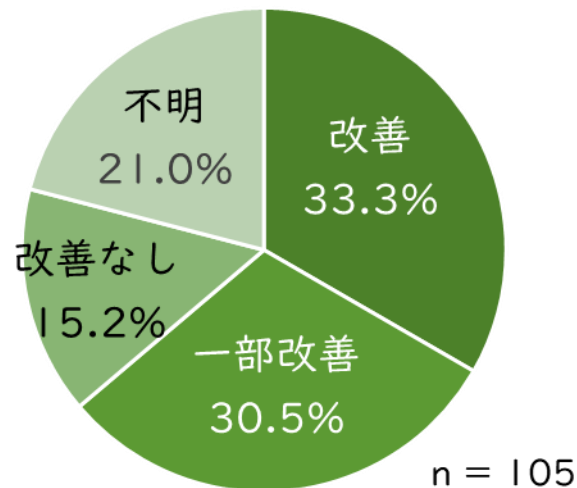
自らの処理方法に固執してミスが発生させる様子があり、支援スタッフとの相談を通じて作業遂行を行うことでミス軽減が図られることが確認されたため



➡ 適応的な行動・反応の獲得

結果 | 支援事例の分類

「支援の結果」の記述を分類→課題の改善状況に注目



・ 周囲から「〇〇さんの作業スペースを確保することが望ましい」と理解を得やすくなった。

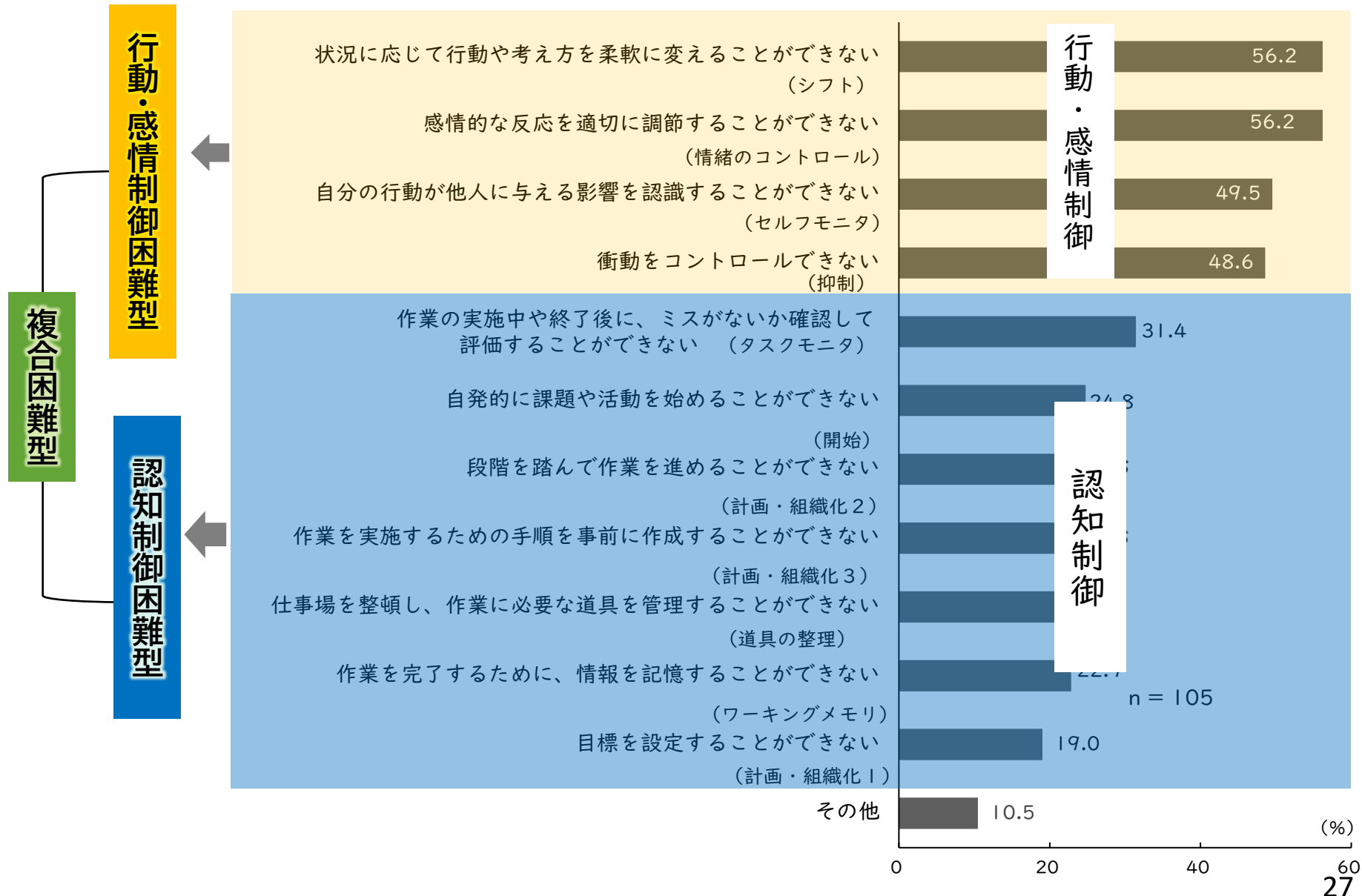
・ ミスを減少できたことで「支援者と相談するメリット」を実感することができた。



➡ 改善

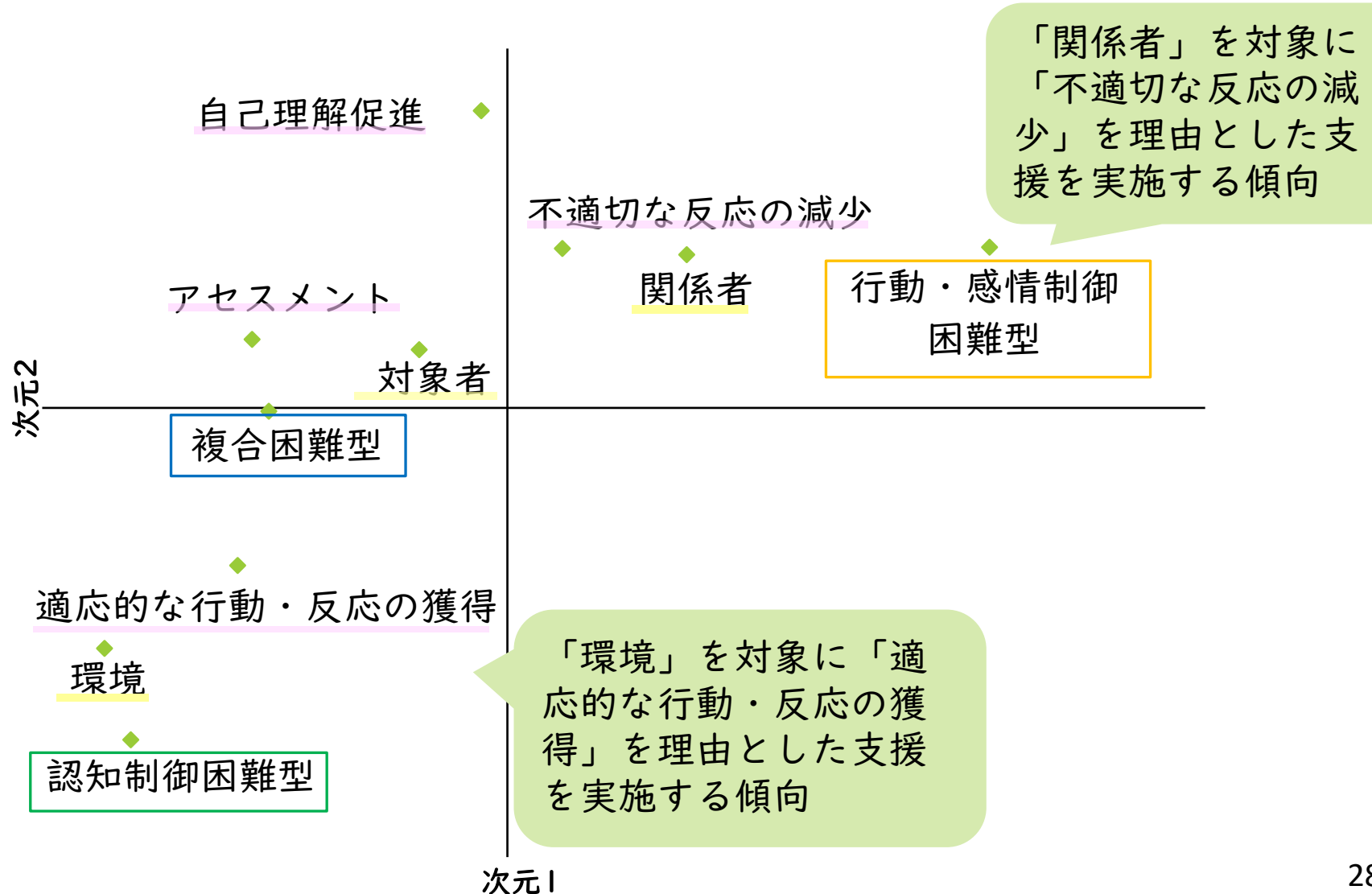
約6割の事例で改善がみられた

結果 | 事例の類型化



結果 | 困難類型別支援の実施状況

支援の対象や実施理由に違いがある可能性



結果 | 困難類型別課題の改善状況

課題の改善状況に違いがある可能性

* $p < .05$ ** $p < .01$

	改善	一部改善	改善なし	不明
行動・感情制御困難型 (n = 39)	13	8	10 *	8
認知制御困難型 (n = 20)	4	12 **	2	2
複合困難型 (n = 46)	18	12	4	12

「不明」を除いて χ^2 検定を実施： ($\chi^2(4) = 12.05, p < .05, V = 0.27$)

3. 研究紹介2

実行機能に困難のある対象者への
支援に関するフォーカスグループ・インタビュー

目的と方法

目的

実行機能に困難のある対象者について、その支援方法や支援を実施する際の課題、効果のポイントを明らかにする

方法

- 実施時期：2024年6月
- 実施時間：120分
- 対象者：障害者職業カウンセラー 6名
(支援経験年数10～17年)

方法 | インタビュー内容

- ・ 3つの困難類型に対応したエピソード例を提示し、それぞれについて以下の内容のインタビューを実施
- ・ エピソード例は、アンケート調査の結果から作成

エピソード例として提示したケースについて、過去に対応した同様または類似していると思うケースのうち、就職や復職、職場定着がうまくいったケース、部分的でも困難が生じていた状況が改善したケースがあればどのような関り、働きかけを行ったか、できるだけ具体的な内容とその際着目したポイントや留意点についてお話してください

方法 | エピソード例 | (行動・感情制御困難型)

【初回面談時に、以下のようなエピソードが本人及び周囲の人（家族、職場の方、支援機関等）から聞かれた】

- ・ 業務とは関係なく緊急でない用件だが、勤務中にスマートフォンをしばしば操作する。
- ・ 効率化のため作業の手順が簡素化されたが、以前の手順が抜けず、しばらく続けていた。
- ・ 本人がミスの指摘を受けた際に、自分なりの理由を伝えると（上司等から）「言い訳ばかりするな」と言われたことがある。
- ・ カチンと来ることがあると、相手に関わらず、思ったままを伝えてもめることがある。

方法 | エピソード例2（認知制御困難型）

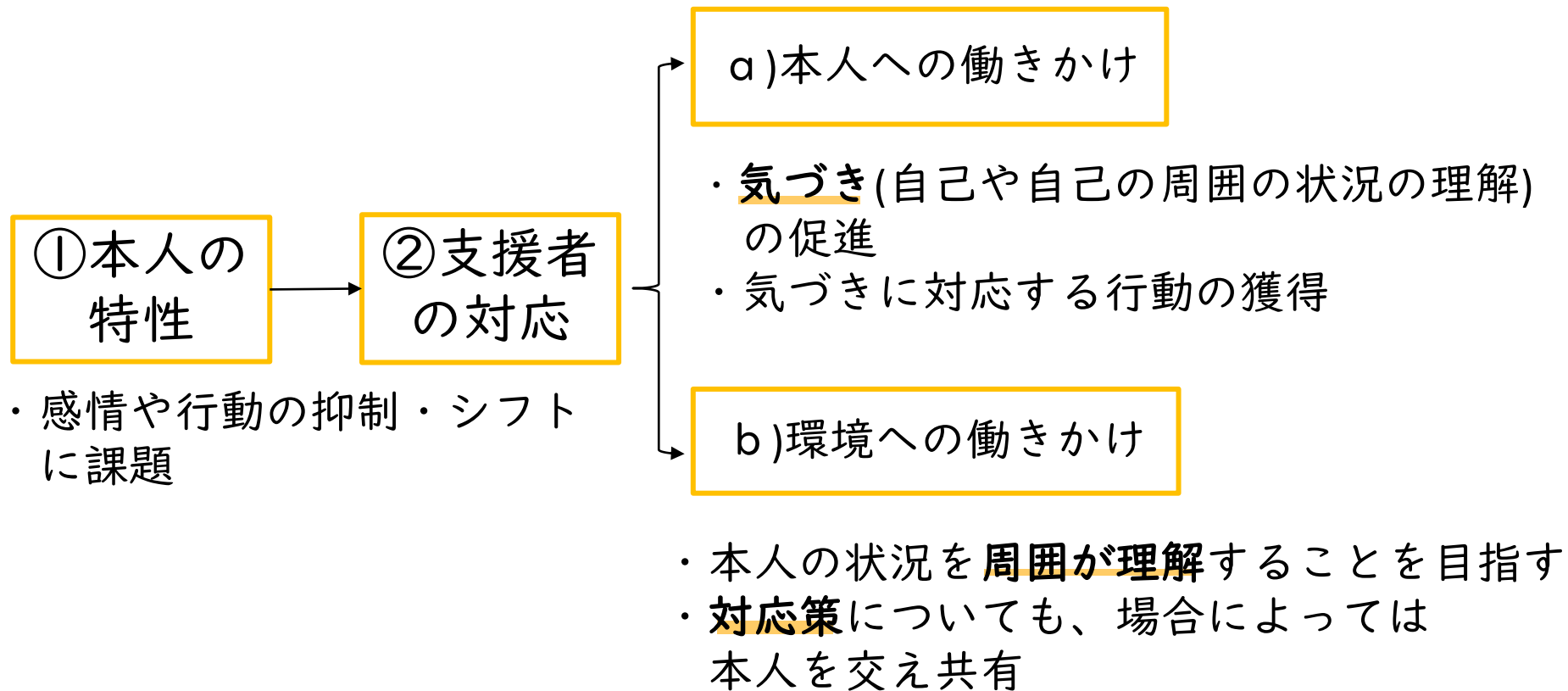
【初回面談時に、以下のようなエピソードが本人及び周囲の人（家族、職場の方、支援機関等）から聞かれた】

- ・ 朝礼で話される内容をその場では覚えられないことが多い。
- ・ 気分が乗らないときになかなか課題に手を付けられない。
- ・ 目標設定や優先順位付けなどが難しい。
- ・ 自分でスケジュールを立てると、当初想定した作業時間をオーバーする。
- ・ 作業を進めるにあたっての段取りを考えることが苦手である。
- ・ 作業の途中や終了後に、自分の作業状況、作業結果を振り返ることがない。

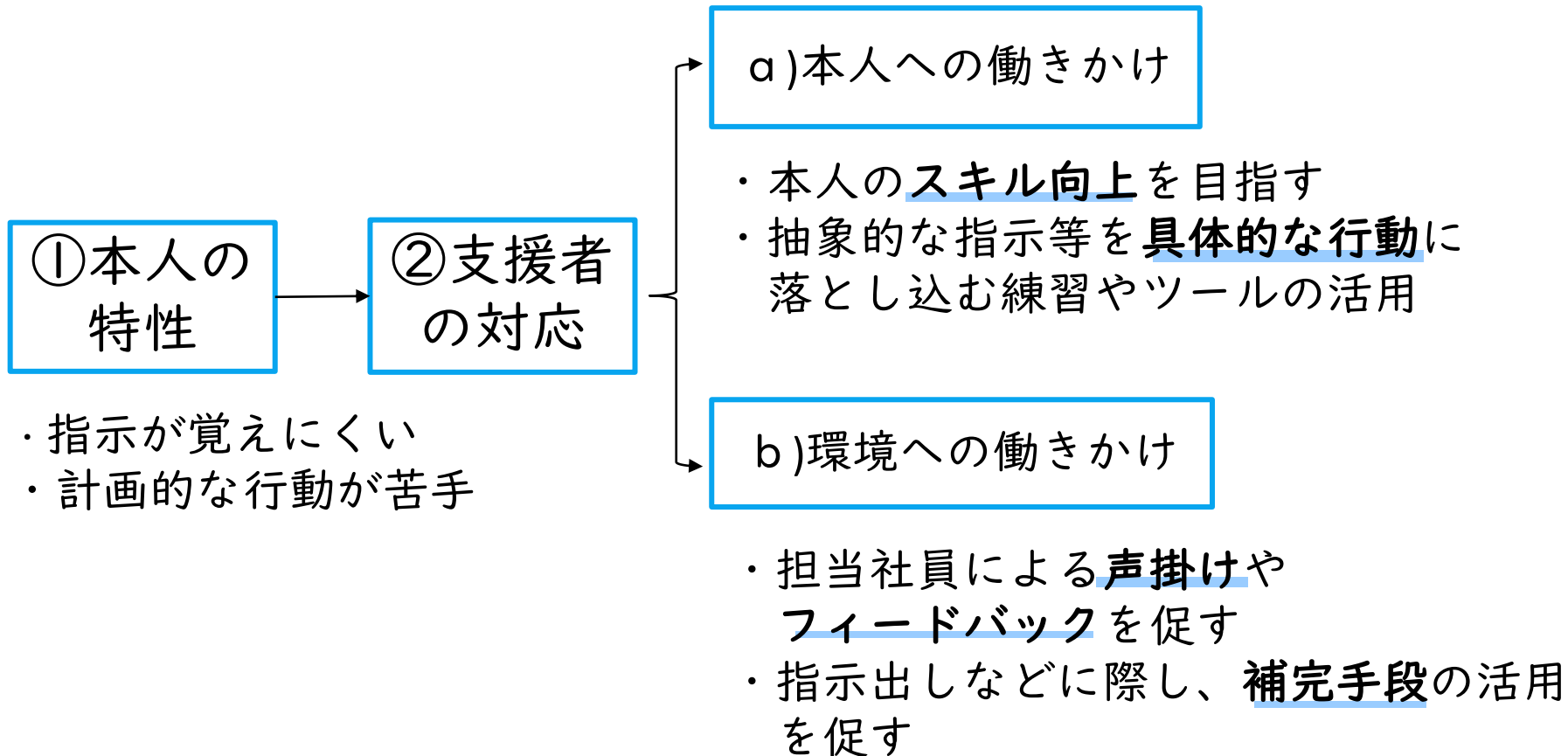
方法 | エピソード例3（複合困難型）

【初回面談時に、エピソード例 1 及び 2 のいずれのエピソードも本人及び周囲の人（家族、職場の方、支援機関等）から聞かれた】

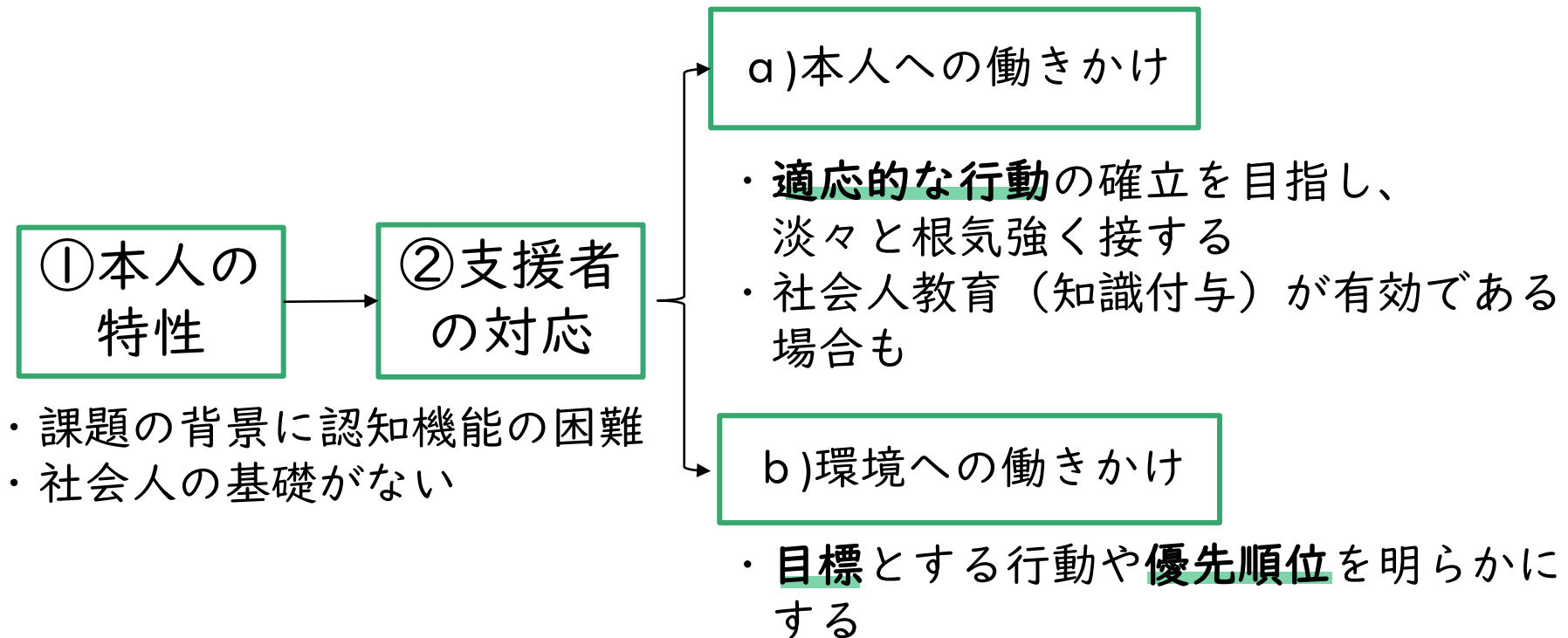
結果 | エピソード例 | (行動・感情制御困難型)



結果 | エピソード例 2（認知制御困難型）



結果 | エピソード例 3 (複合困難型)



まとめ

客観視できているか

→ 気づきを与える

- ・ エピソード例 1 ～ 3 は支援の当面の目標設定が異なる
- ・ 目指すところは、いずれも本人及び周囲の困り感の解消

○共通点

対象者本人が事態をどれだけ客観視できているかが重要

○相違点

「困る」と「気づく」ことの傾向

エピソード例 1 : 本人が気づくより先に「周りが困る」ことが多い

エピソード例 2 : 既に本人に一定程度の気づきがある

エピソード例 3 : 1 と 2 の複合（教育的な対応が必要）

全体のまとめ

- 実行機能に困難のある対象者を、3つの困難類型に分類

→ 類型ごとにアセスメントや介入のポイントを具体的に示した

- 今後の課題

実行機能の概念に基づいたアセスメント結果を踏まえた支援方法について、より詳しく検討